

V233b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用

伊藤 洋一, ほか西はりま天文台スタッフ (兵庫県立大学)

西はりま天文台は、日本最大口径の光学望遠鏡「なゆた望遠鏡」を主力機器として、教育研究活動と生涯学習事業を積極的に推進している。「なゆた望遠鏡」には、可視光撮像装置・可視分光装置・近赤外撮像装置・可視光ターゲット観測システム・可視同時偏光撮像分光装置などの装置がある。これらの装置は定常的に運用されており、晴れれば毎晩、天文台スタッフが研究観測を行っている。また、東京大学が開発した狭帯域撮像分光装置 LISS も PI 装置として活躍している。

我々は、「公募観測」制度を 2013 年秋に開始した。これはプロポーザルを年二回募集し、外部の研究者を含めた審査員のレフェリーをもとに観測時間を割り当てる制度である。兵庫県立大学からの補助により、旅費も一部が支給される。我々は一年間で 40 夜を公募観測に割り当て、研究観測の多様性を追求してきた。競争倍率は要求夜数ベースで約 2 倍であり、「なゆた望遠鏡」による観測の需要に適切に対処できていると考える。

講演では、公募観測を始めとする研究観測の現状を述べ、併せて将来の計画についても議論したい。